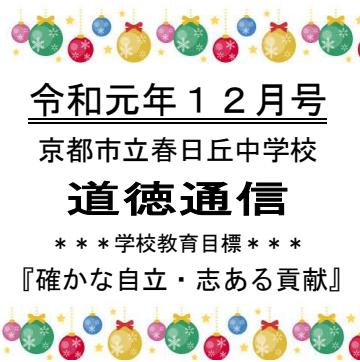




明日への扉

アスヘノトビラ



令和元年12月号

京都市立春日丘中学校

道徳通信

学校教育目標

『確かな自立・志ある貢献』

年号が“平成”から“令和”に変わって8ヶ月。今年も残り10日を切りました。毎年12月の半ばに、その年を表す漢字1文字が発表されますが、今年の漢字は何か知っていますか？そう、今年の漢字は「令」です。この漢字が選ばれた理由は、新しい年号の「令和」に明るい時代を願う国民の思いをのせているということ、また法令改正による消費税増税やさまざまな問題が起き、法令遵守が重視されたことなどが挙げられます。まさに今年1年間を表すのにふさわしい漢字です。さて、みなさんにとって、今年1年はどんな年でしたか？1年生は小学校から中学校へと大きく環境が変わり、戸惑いもあったと思います。2年生は先輩として、1年生を引っ張ってくれました。3年生はきっと、これまでになく真剣に自分と向き合い、卒業後の進路選択について悩み、覚悟を決めたのだと思います。今年もあと少しで終わります。冬休み中に「今年はこんなことがあったな…」とゆっくり振り返ってみては？もちろん、3年生は寸暇を惜しんで、受験への準備をしてください！



--*-*-*授業の様子を紹介します*-*-*-*

“どうせ無理”という言葉に負けない～ローテーション道徳より～

10月から始まったローテーション道徳がひと通り終わり、8人の先生がそれぞれのクラスで授業を終えました。毎週「今日はどの先生が来るのかな？」と楽しみにしてくれていたことがとても嬉しかったです。本当は8人すべての先生の授業を紹介したいのですが、今回は藤本宏美先生の授業を紹介します！



みなさんは普段の生活の中で「どうせやっても無理やし…」と思ったことはありませんか。今回の教材は、ロケット開発にかける植松さんの思い、そして決して諦めずに挑戦し続ける姿を通して、新しいものを生み出すときには何が必要なのかについて考えました。

《ワークシートより（授業の感想）》

- 自分の好きなことに自信がついて、その夢を叶えようと前向きな姿がいいなと思った。どうせ無理と思わず、いろんなことを考えていきたい。
- どうせ無理と言っていたら何もできないから、無理と言わずにやる気を出して自分自身の気持ちを大切にしたらいいなと思う。諦めずに挑戦・チャレンジしていったら、これから的人生で何でもできると思う。
- 一生懸命に何事にも頑張ることが大切だとわかった。私は“一生懸命頑張っていれば、いつかチャンスがおとずれる”という言葉に励まされているから、これからも頑張りたい。
- 私もよく「どうせ無理」と思うことがあるけど、それはただの言い訳だということに気づいた。やれないと思っているだけで、やればできるし、知らないことは調べたらよくて、諦める必要はないと思えた。
- 何度もチャレンジすることで得るものがあるとわかった。人がやる前に、自分から挑戦しようとする気持ちを持つことが大切。



“本当の私”

みなさんは、やってしまった…と感じたこと経験はありますか。またそのあと、すぐに謝ったり、自分の過ちを正直に伝えることはできますか。

今回の教材は陸上競技・短距離のアメリカ代表のエイミーさんのお話です。彼女は強くなりたいあまり、違法とわかっているドーピングに手を出していました。その結果、世界選手権で圧倒的な強さで金メダルを獲得。しかし、観客や仲間からの祝福に、心から喜ぶことができません。自分の走っている姿に「本当の私じゃない」と感じたエイミーは勇気を出して自分のしたことを正直に告白しました。批判もたくさんありましたが、エイミーは自分にとって本当に大切なものを取り戻すことができました。みなさんも何かやってしまった…と思ったあとは、自分を振り返り、正直に言える、強さをもった人になってください。

『ワークシートより（授業の感想）』

- ・誰でも間違えることはあるし、してしまったことはどうしようもできないから、その後どうすればよいのかをしっかり考えて行動しようと思った。
- ・人間はみんな弱い部分と強い部分を持っている。その弱い部分をどう強くして、強い部分をどうレベルアップさせるのか考えることが、人としての成長だと思った。



“差別や偏見をなくすために”

いろいろな先生が授業するローテーション道徳も、いよいよ大詰め。12月は人権について理解を深める月間です。先日も、『偏見から自由になろう』をテーマに人権学習を行いました。話は変わりますが、『被ばく』という言葉を聞いたことがありますか。放射線を一度にたくさん浴びることをいい、めまいや吐き気などの不調が出ます。道徳では、1954年に被ばくしたマグロ漁船「第五福竜丸」に乗っていた大石さんの人生にふれました。仲間を亡くし、自分だけでなく家族も差別され、身をかくすように住む場所を移った大石さん。しかし、「逃げても被ばくした事実は変わらない」と心を強くふるい立たせ、現在は核の恐ろしさを伝える語り部として活動されています。差別はなくならないし、自分には関係がないと言ってしまうことは簡単ですが、多かれ少なかれ差別に苦しむ人は現代にもおられます。今後、差別や偏見に苦しむ人を出さないために、私たちに何ができるでしょうか。今一度、立ち止まって考えてみてください。



『ワークシートより（授業の感想）』

- ・ちょっとした誤解や偏見から差別が生まれると思うから、本当に正しいことをちゃんと知ってから考えたい。
- ・偏見や差別は一人ひとりの不安から起こるのではないかと考えた。自分が周りから浮かないように必死になるよりも、自分がどんな人でありたいか考えるべきだと思う。
- ・根拠のない偏見から作られた嘘の物語から、真実を見極める力が大事だと思った。
- ・自分がもし根拠のない差別を受けたら、大石さんのように立ち向かう強い気持ちを持ちたい。
- ・無意識のうちに差別していたり、良いと思ってしたことで相手が傷ついたりすることがある。相手を知り、自分が思っていることがすべて正しいと思いこまないようする。